

ゆっくら通信

社会福祉法人ゆっくら
〒301-0834
茨城県龍ケ崎市古城 3204
電話番号 0297-85-4301
<http://yukkora.jp/>



～2020年3月7日で15周年～

社会福祉法人ゆっくら 理事長 杉江 彰

2020年3月7日に社会福祉法人ゆっくらは創立15周年を迎えます。

15年前は、竜ヶ崎保健所管内、つくば保健所管内で精神障害者が利用できる社会資源はごくわずかしかありませんでした。たった2つの精神障害者共同作業所が、多くのおみなさんのお援助で今日のゆっくらに成長できたのは夢の中のような気持ちです。

しかし15年前からあまり前進していない分野もあります。精神科病院に長期入院している人数は少し減ってはいますが、1割程度の減少の水準です。家庭や地域で暮らしていても「ひきこもり」状態の方も多数います。障害者雇用促進法改正で精神障害者の一般就労はかなり前進しましたが、残念ながら長期に安定的に就労できている方は少数に留まり今後の課題になっています。

ここ数年で、発達障害の方の利用が増えています。ゆっくらは統合失調症の方を中心とした社会資源として充実させてきましたが、増え続ける発達障害の方への対応を充実していく課題があります。

15周年は節目ですが、今後も課せられた使命を自覚して次の20年、30年を目指していきましょう。

あけましておめでとうございます。
今年もよろしくお願ひ致します。

“備えあれば患いなし“… の年になるように。。。

グループホームボランペの家 立石・高梨



昨年は台風の規模が大きく関東地方でも被害が多い年でした。地球温暖化が進み日本にしかない四季を肌で感じる事も少なかった様に感じました。10/12の台風19号ではグループホームの対策として、前日にマリナー居住棟の窓ガラスに養生テープを貼り、谷井田・板橋・マリナーの3か所には非常食の用意をしました、幸い大きな被害はなかったので安心しました。“備えあれば患いなし“… でした。

今年も昨年のように勢力を増した台風が来る事を想定内とし対策や準備をミーティングの中で話し合う機会を多く設け少しでも意識を持ってもらえたら良いと思います。今年も皆様にとり良い年になりますように！そして、良い年にしましょう！！

～ボランティア講座で発表して～

地域活動支援センターふれんず Y・Eさん



10月24日守谷市にある保健センターで自分の障害について発表をしました。わかばさんからは三人で来ていました。他の発表者から色々な話を聞いて障害があっても働きたいという人や何かをやりたい人もいました。私は知的障害ですが、私の話を聞きに来てくれた地域の人たちと色々な話ができて嬉しかったです。



つくば保健所定例販売

～15種類のパン、2種類のプリンを完売しました～

就労継続支援B型

フレッシュグリーン

松橋和枝

「今日は全部売れました!」とつくば保健所の販売に行ったKさんから弾んだ声で報告がありました。昼休みをしていた利用者や職員はそれを聞いて拍手! 12月11日(水曜日)12時40分頃のことです。

この日はおからあんぱんをはじめベーコンぱんやブルーベリークリームチーズぱん、カレーぱんなど15種類のパンとプリン2種を用意して、利用者2名、職員で販売に行きました。

販売に間に合うように朝からパンコネ器でベースのおからぱんをこね、1次発酵をして分割した生地を利用者さん達が一つずつ成形していきます。15種のパンの中身を取り違えることがないように作業工程は工夫されていますが細心の注意を払いながらの作業です。それらを2次発酵して焼きます。焼きたてほやほやを持って販売に出かけるのです。

フレッシュグリーンではともだち村分室だった2012年から毎月第2水曜日につくば保健所に訪問販売に伺っています。次第にぱんの種類が増え、リピーターも増えていると実感しています。



あんぱんの成形



ベーコンぱんの成形



激辛カレーぱんの成形



中身がわかるように
入れた切込み



焼きたてほやほやのパン

～ボランティア講座での発表内容～

地域活動支援センターわかば M・Aさん

医師にうつ病と診断されたのが19歳、統合失調症を発病してから20年ほどたちます。

様々な症状があり、精神薬の助けが必要な中、その副作用に悩まされることも多々ありました。歳をとるたび、環境の変化により、成長とは言い難い、思考の変容を振り返ると、自分が精神疾患を抱えて生きているのだと、そして、今もそうなのだ実感させられます。

その中の、ひとつの症状に被害妄想があります。根拠がはっきりしないうちに、自分のまわりの人を敵視してしまったり、自分が嫌われている、責められていると妄想してしまうことです。

自分自身、その症状は強く、昔から持っていた症状だと認識しています。こういった話しを切り出している一方で、「いや、症状ではない、自分が嫌われているのは事実だ」と頭の片隅で考えています。しかし、被害妄想という認識を強く持たなければ、ぼくは、まわりを憎み、攻撃してしまいます。

それは、円滑な人間関係を崩し、人を傷つけてしまいます。

思い返すと、ぼくの被害妄想的な感情の動きは、幼い頃からあったように感じることも、しばしばあります。ですが、今回は直近の出来事、それにともなう、ぼくの気持ちと行動を事例にして、お話しできたらと思います。

ぼくは、地域活動支援センターわかばという施設に通所しています。最近では、自分の趣味であり、支えにもなっている詩作、つまり詩を書くことを主な活動としています。ぼくひとりではできないことを、わかばの職員に助けてもらうことが度々あります。その助けがあることで、詩作を続けられる上に、創作のモチベーションもあがります。そのため、わかばで詩を作ることは、ぼくにとっても大事な時間となっています。

しかし、先日、完成した詩について、わかばの職員と話をしている時に、ぼくは相手の発言を曲解してしまい、自分の詩作を軽んじている、趣味程度で終わるようなヒマつぶしだと扱われていると受け取ってしまいました。

あとで確認したら、もちろん、そのようなことはなく、わかば職員の善意から出た話しを、ぼくにわかりやすく伝えようとしたのが事実でした。ですが、その時は、そのように捉えられませんでした。ぼくの中の被害意識は強くなり、自分の不甲斐なさと、わかば職員の発言を憎みました。気持ちを抑えようとしたが、上手くいかず、気がつけば怒声をあげて、パイプ椅子などを蹴り倒してしまいました。すぐに今の自分のした行動を把握できたので、職員と、きちんと話し合うことなく、そそくさと、その場から立ち去り、帰ってしまいました。

…次号に続く…